



No.343 平成31年1月15日発行
発行・編集 連合駿台会

発行人 広報委員長・齋藤柳光
編集人 事務局・矢嶋まゆ子
〒101-0052千代田区神田小川町三―二二
明治大学「紫紺館」内
電話 (〇三) 三二九六一四七四七
印刷 有限会社 美創

大学との連携を密に… 謹賀新年

連合駿台会
会長
田村 駿



会員の皆様におかれましてはご家族そろって健やかな新年をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます

旧年中は皆様の一方ならぬご支援・ご協力によりまして、連合駿台会事業運営はお陰様で順調に推移しましたこと、心よりお礼申し上げます

昨年は、前身であります「茗水クラブ」誕生から六十五周年の節目の年でしたので九月十九日にホテルグランドパレスにて、大学側よりご来賓として柳谷理事長、土屋学長のご臨席を賜り創立六十五周年記念式典を開催いたしました。当日は大勢の会員の参加を得て大盛会でした。

会員増強も近年特に50代、60代の現役役員

の加入が多く、五月の定時総会において、丁度役員改選期でもありましたので副会長を始め役員若返りをさせて頂きました。

平成二十九年十一月に六ヶ月にわたり検討して頂きました「大学支援のあり方検討委員会」より答申を受け、その中から二つほど新たな枠組みで大学支援のお手伝いをさせて頂きました。一つは十月開催の「ホームカミングデー」において「商学部学生対抗プレゼンテーション大会」に、大学支援委員会のメンバーが外部審査員として初めて参画し、優秀賞、敢闘賞を選出、表彰しました。新設した賞のお陰か例年の一・五倍の百五十名の学生が参加、大盛況でした。二つ目は十月に留學生一、二年生対象に、日本企業への就職率向

上の為のガイドラインを大和総研ホールディングスのご協力を得て初めて実施、大変好評を得ました。

また、十月の運営委員会では、創立六十五周年を記念しバッジ作成を決め、製作は山田朝彦常任理事(日展理事)に今年の総会時を日途にお願いしました。期待して頂きたいと思えます。

さて、今年の日本は、最大のイベントとして、天皇退位、新天皇誕生、新年号となり、新たな時代に入ります

わが母校は、昨年十一月「明治大学創立一四〇周年記念事業実行委員会」(委員長柳谷理事長、副委員長土屋学長他22名)を設置、来る二〇二一年の一四〇周年事業について討議を開始、事業計画及び四つの分科会を置き、詳細は今年から実質的な具体論議を開始します。

一方、当会は大学支援のあり方について、もっと深掘りして大学側と協議を重ね具現化していく所存であり、会員の皆様には次回の例会が待ちどろしいといわれるような内容(講師の選定、新たなイベント等)の運営を目指していきたいと考えております。どうか倍旧のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様にとって素晴らしい一年となりますよう心よりご祈念申し上げます、新年のご挨拶とします。



「創立一四〇周年への機運を高めその先へ」

学校法人明治大学
理事長
柳谷 孝



二〇一九年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。連合駿台会の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、二〇一八年を学校法人経営の視点で振り返りますと、多摩テック跡地の訴訟結審に代表されますように長年の懸案事項に一定の目途が付き、同時にまた四月からの第二期中期計画に基づいて新たな動きがスタートした、文字通り節目の年となりました。

まず財政面では、かねてより取り組んでおりました学費改定・収容定員増等の収入基盤の整備、保有アセットの見直し、水光熱費などのコストコントロールの実現などにより、最終的に二〇一七年度決算で企業の純利益に相当する「基本金組入前当年度収支差額」が前年度に続き二年連続一四億円強のプラスとなりました。

また施設整備面では、海外からの受け入れ留学生と地方出身の日本人学生が、共に生活し学ぶ場として二一六名収容可能な国際混住寮である「明治大学グローバル・ヴィレッジ

ジ」が、本年三月の竣工に向けて建設中であります。キャンパスの内側からグローバル化が進展する一助になることを期待しています。さらに和泉キャンパス第二校舎の南側に、教養教育・初年次教育・国際教育の展開という教学の設計コンセプトの下、アクティブラーニングやラーニングコモンズの創設など新しい学びを牽引する新校舎建設の準備をスタートさせました。

このように本学が次なる一步を踏み出せましたのも関係各位のご支援の賜物でございますが、昨年は特に連合駿台会から有難いお力添えを賜りました。長年にわたり「連合駿台会学術賞・学術奨励賞」を通じて本学教員の研究活性化に寄与していただいておりますが、これに加えて新たに「商学部学生対抗プレゼン大会」にも協賛いただきました。大会当日は私も各会場を回り、審査のオブザーバーとして参加された連合駿台会の皆様とお会いしました。学生達は、各プレゼンについて社会の第一線で活躍する先輩方からの意見を直に頂戴でき、大変貴重な経験であっ

たと存じます。このような教育振興への新たな形でのご支援に対しましても、重ねて御礼を申し上げます。

ところで、本学創立一四〇周年となる二〇二一年も近づきまして、周年事業を具体化するための実行委員会を昨年十一月に立ち上げました。連合駿台会からも田村会長に委員として参画いただいておりますが、新年を迎え気持ちを新たに、連合駿台会の皆様方をはじめ、学生・教職員・父母・校友・地域コミュニティなど多くの方々との未来の明治大学の姿を語りつつ、共に一四〇周年への機運を高めてまいります。また、本学の取り組みや方向性についてタイムリーに情報提供を行い、皆様からご理解・ご賛同を頂きながら、第二期中期計画に基づいて教育研究の質の向上をしっかりと支えらるとともに、財政基盤の確立と環境整備を一段と進めてまいります。

結びになりますが、本年も引き続きのご支援とご指導を賜りますようお願いを申し上げますとともに、連合駿台会の皆様方のさらなる活躍とご健勝をお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。



フロントラインに立つ明治大学を目指して

明治大学
学長
土屋 恵一郎



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。連合駿台会の皆様にとって昨年は、創立六十五周年を迎えた節目の年であったかと思えます。明治大学にとっては、教育、研究、共により一層飛躍した一年となりました。

教育の面では、優秀な学生を世界に送り出すための「海外トップユニバーシティ留学奨励助成金」にて、六名の学生をハーバード大学やスタンフォード大学などの欧米のトップスクールに送り出すことができました。また、昨年六月にフィリピンのマニラに「明治大学マニラ英語トレーニングセンター」を設立し、その年の夏には約三十名の学生を派遣しました。アセアン諸国や欧米諸国との連携を強化し、学生が世界へ羽ばたける機会を増やすことができましたと実感しています。

他方、研究の面では、昨年四月に「自動車転総合社会研究所」を設立しました。この研究所では、自動運転に関わる交通事故の責任などの法律の問題、損害賠償など保険の問題、さらには地方創生につながる実装化に向けた各地域の自治体との連携などの問題を、日本社会全体の問題として考え、各学部の枠

を超えて研究者が集まり、問題の解決に向けて研究を推進しています。今後も、このように各分野の専門家たちが垣根を越え、連携し合いながら研究を進める体制を整えていく所存です。

また、昨年は創立一四〇周年記念事業に向けて実行委員会が開始しました。創立一四〇周年は建学の精神である「権利自由」「独立自治」を見つめ直す良い機会だと考えています。その創立一四〇周年を考えた時に大きなトピックとして、昨年十一月に「明治大学ダイバーシティ&インクルージョン宣言」を発表したことが挙げられます。これは、多様な背景を持つ学生に対して、その多様性を受容・尊重し、そして、個々の能力を存分に発揮できるよう、大学が適切な教育環境の整備を推進していくことの表明です。本学はこの指針を基盤として、多様な価値観を受容し、共に学び共創する大学を目指して世界へ、そして未来に向けて、進んでいきます。

残された学長任期は一年となりましたが、今後も社会が求める声に対して、常にフロントラインに立ち、新しい形の教育・研究を導

き出していく所存です。その上で重要なことは、教養系新学部を設置することだと考えています。これは、専門教育だけに比重を置きがちだった大学の体制の中で、再度、教養教育、リベラルアーツの重要性を見直していくことを意味しています。各学部がカリキュラムを並べただけの総合大学から、各専門的知識が結び合う教育を実践する混合大学へと転換していくためにも、教養系新学部をぜひ作りたいたいと思っています。また、施設の面におきまして、新たな教育・研究施設の他、既存施設のバリアフリー化などの問題があり、キャンパス体制の合理化も含めた整備計画を準備してまいります。

二〇二一年の創立一四〇周年、さらにその先の創立一五〇周年を見据えて、本学のあるべき姿を描き、前進していきたいと思えます。その実現のためにも連合駿台会の皆様とも活発な議論を交していきたいと思っています。共に前へ進みましょう。

結びにあたり、連合駿台会のみならずの皆さまと会員各位のご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

謹賀新年



明治大学評議員

あぐつ
坪 昭二

〒154-0002 世田谷区下馬二-130-13
TEL 二四二四-1187
E-mail:shojak2@xg8.so-net.ne.jp

足立会計事務所

税理士 足立吉松

〒410-0832 静岡県沼津市御幸町二四-130
TEL 〇五五-九三二-六三九一
FAX 〇五五-九三四-〇二二五

株式会社エービーコーポレーション

代表取締役 阿部倫明

〒980-0004 仙台市青葉区宮町三-八-133
TEL 〇二二-127-0033
FAX 〇二二-125-1081

株式会社ニチレイフーズ

取締役会長 池田泰弘

〒104-8402 中央区築地六-1-91-20
ニチレイ東銀座ビル
TEL 三三四八-2122
FAX 三三四八-2140

SMB C日興証券株式会社

専任 執行役員 石井仁

〒100-6524 千代田区丸の内-1-51-1
新丸の内ビルディング
TEL 三三八三-6777
FAX 三三八三-〇一五〇

税理士法人あい&ゆう税務会計事務所

代表社員 石橋良一

〒142-0022 品川区二葉二-24-91-〇一
TEL 三七八三-1171
FAX 三七八三-1175

三八五流通株式会社

常務取締役 泉山和久

〒039-1189 青森県八戸市長苗代上中坪三五-1
TEL 〇二七八-1271-4141
FAX 〇二七八-1271-5091

商業施設/設計施工プロデュース
株式会社C.P.O設計

代表取締役 伊東正博

〒163-0444 新宿区西新宿二-1-1
新宿三井ビル四四F
TEL 五三三五-1961-1
FAX 五三三五-1962-2

明治大学評議員・校友会副会長

岩田守弘

〒520-0052 滋賀県大津市朝日が丘-1-14-16
TEL & FAX 〇七七-五二六-〇八〇二

株式会社チユチユアンナ

代表取締役 上田利昭

〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央-1-〇一-2
TEL 〇六-717-6115
FAX 〇六-717-6115

株式会社プラム社

代表取締役 宇田川雄弘

〒179-0085 練馬区早宮三-17-14
ファミリエビルF
TEL 三九九三-1538-1
FAX 三九九三-1538-3

総合物流をはじめとする多彩なサービスを
「お客様のご満足」と「安全」をモットーに
提供し続ける会社、それがアサガミです

 **アサガミ株式会社**

ASAGAMI

本社:東京都千代田区丸の内3-1-1
Tel (03) 6880-2200 fax (03) 6880-2230
<http://www.asagami.co.jp/>



ペップ・メイツ株式会社

代表取締役 大前 実之

〒103-0011 中央区日本橋大伝馬町一四一〇一四F
TEL 三六六三二八八二七
FAX 三六六三二八八二八

安全と信頼の警備
タイヨー株式会社

最高顧問 大村 託現

〒124-0023 葛飾区東新小岩五―八―一二
TEL 五八七五―七三五〇
FAX 五八七五―七三六〇

株式会社アマタホールディングス

代表取締役兼CEO 岡本 満夫

〒259-1196 神奈川県伊勢原市石田二〇〇
TEL 〇四六三―一九六一―一一一
FAX 〇四六三―一九六一―三三三五

株式会社カナエ

代表取締役社長 金子 圭太

〒105-0013 港区浜松町二―一―〇―一二
TEL 三四三二―一五四一〇
FAX 三四三七―一六六六八

株式会社ホテルグランドパレス

代表取締役社長 河村 博

〒102-0072 千代田区飯田橋一―一―一―一
TEL 三二六四―一―一―一
FAX 三二六四―一五四九六

木下サーカス株式会社

代表取締役社長 木下 唯志

〒700-0822 岡山市北区表町三―二―二―二二
TEL 〇八六一―三三―一四九七二
FAX 〇八六一―三三―一四九七二

野村不動産ホールディングス株式会社

代表取締役社長 グループCEO 沓掛 英二

〒163-0566 新宿区西新宿一―二六―一二
TEL 三三四八―一七八〇五
FAX 三三四三―一〇四四五

日本電子株式会社

代表取締役社長 栗原 権右衛門

〒196-8558 東京都昭島市武蔵野三―一―一二
TEL 〇四二一―六四三―一―一一一
FAX 〇四二一―五四六―三三三三三
<http://www.jeol.co.jp>

ユナイテッドブレジョンテクノロジーズ株式会社

代表取締役社長 古賀 慎一郎

〒162-0843 新宿区市谷田町二―一―三七
TEL 三三六〇―一五三二六
FAX 五二六六―一七〇八五

日本共同株式会社

代表取締役社長 小島 清治

〒141-0022 品川区東五反田二―二〇―一四
TEL 三四四四―一―一三二
FAX 三四四四―一―一三二
(携帯) 〇九〇―一三三―七―四三三三

金印株式会社

代表取締役社長 小林 一光

〒103-0012 名古屋市中区栄三―一―八―一
ナナイパークビジネスセンタービル三F
TEL 〇五二―二四二―一〇〇〇八
FAX 〇五二―二四二―一〇〇〇九

東神興業株式会社

社主 根田 哲雄
代表取締役 根田 吉雄

〒167-0043 杉並区上荻一―二二―一―一九
TEL 五三三五―一六八六一
FAX 五三三五―一六八六〇

明治大学マスコミクラブ

常任顧問 齊藤 柳光

〒330-0855 さいたま市大宮区上小町九四五
TEL 〇四八―六四四―一〇〇八五
FAX 〇四八―六四四―一〇〇三〇六

船用照明器具・船用配線器具・船用信号器具・船用配電盤
ヘリコプタ着船援助器具・高耐水性照明器具
ISO 9001:2008認証工場

— 信頼と実績に応え、未来に挑戦する集団 —

大石電機工業株式会社

代表取締役社長 大石 哲也 昭和63年工学部卒業

〒140-0011 東京都品川区東大井2-17-9

TEL 03-3761-2166 (代表)・FAX 03-3761-4851

<http://www.ohishi-denki.co.jp>



<p>取締役常務執行 役員営業本部長 株式会社サンゲツ 佐々木修二 〒140-8611 品川区東品川三二〇一―一七 TEL 三四七四一―二二九 FAX 三四七四一―三〇七</p>	<p>取締役兼執行役員 専任本部長 パルメゾン代表 六興電気株式会社 坂本孝行 〒105-0012 港区芝大門一―一―三〇 TEL 五四〇四―六七六一 FAX 五四〇四―六七一五</p>	<p>代表取締役社長 公認会計士 株式会社サイナス 坂田英夫 〒103-0027 中央区日本橋三―五―一―三 TEL 三二七五―〇八〇八 FAX 三二七五―〇八〇〇 三義ビル八F 株明大サポート監査役</p>
---	---	--

<p>代表取締役 株式会社日本カーゴエクスプレス 鈴木隆志 〒105-0003 港区西新橋一―二〇―一―九 TEL 五二五―一―〇二一 FAX 五二五―一―〇一〇 http://www.jcexp.co.jp</p>	<p>代表取締役 東都ゴルフ株式会社東都ジャパン 杉浦伸二 創業昭和五十六年 〒103-0027 中央区日本橋三―八―一―〇 TEL 三二八―一―〇八〇一 FAX 三二八―一―〇八九〇</p>	<p>代表取締役社長 片倉工業株式会社 佐野公哉 〒104-8312 中央区明石町六―一―四 TEL 六八三―一―八七三</p>	<p>代表取締役 会長 株式会社シテイハウジング 佐藤仁 〒144-0034 大田区西糀谷四―二八―一―八 TEL 三七四―二―七六〇七 FAX 五七〇―五―八〇九七</p>	<p>学校法人明治大学 監事 連合駿台会 副会長 佐藤健 中小企業診断士</p>
---	--	--	---	---

<p>代表取締役 ユニバーサル企業株式会社 田代恭一 〒104-0045 中央区築地五―三―一―三 TEL 六二六四―七―一七〇 FAX 五五五〇―一三七七</p>	<p>理事長 校長 学校法人新潟大原学園 高橋淑浩 〒950-0086 新潟市中央区花園一―三―一―三 TEL 〇二五―二四六―八八八 FAX 〇二五―二四六―一―一八八</p>	<p>代表取締役社長 ダイアナ株式会社 高橋郁夫 〒150-0001 渋谷区神宮前一―一八―一―六 TEL 三四〇―五―四〇〇一 FAX 三四七九―一八〇一―四 学校法人明治大学評議員</p>	<p>代表 合同会社高澤ヒズアソシエイツ 高澤徹 〒240-0006 横浜市長谷区星川二―二六―一―三三 TEL&FAX 〇四五―一―三三六―四九七〇 (携帯) 〇九〇―二七五七―一六一〇 E-mail:ttakazawa@illy.ocn.ne.jp</p>	<p>林・園部法律事務所 代表弁護士 園部洋士 〒101-0041 千代田区神田須田町一―四―一―八 NCO神田須田町三F TEL 五二〇―九―一三八〇一 FAX 五二〇―九―一三八〇四</p>
--	---	--	--	--

小山修平公認会計士事務所
小山 税理士法人

法人税、所得税、相続税、贈与税、資金調達、会社の再生、事業計画、
相続対策など3人の税理士と職員がサポートします。

〒342-0056 埼玉県吉川市平沼263番地
Tel 048(982)0360 Fax 048(982)0339
E-mail: koyamaac@titan.ocn.ne.jp
<http://www.koyamaac.jdlibex.jp>

経営革新等支援機関
20130118 関東第3号
及び関財金1第57号

電子申告
ダイレクト納付
もやっています



株式会社イタリアントマト
代表取締役社長
田中孝明
〒140-0002 品川区東品川四一―一二―四
品川サイドフロントオーバルガーデンF
TEL 六七二―一九二四一
FAX 六七二―一九二九七

連合駿台会 会長
田村駿
〒154-0012 世田谷区駒沢二―四三―三
TEL 〇九〇―四三七〇―五三五二
FAX 三二二―二一〇八三
北野建設株式会社顧問

明治大学金融紫紺会
副会長
当山明彦
〒101-8301 千代田区神田駿河台一―一
(中村真理子研究室内)

徳丸織物株式会社
代表取締役
徳丸平太郎
〒335-0001 埼玉県蕨市北町三―五―四
TEL & FAX 〇四八―四四三―二〇五〇

明治大学金融紫紺会
副会長
富水流孝二
〒101-8301 千代田区神田駿河台一―一
(中村真理子研究室内)

株式会社ナガセインテグレッタス
代表取締役社長
長瀬幸泰
〒501-2697 岐阜県関市武芸川町跡部一三三三―一
TEL 〇五七五―四六二―三三三三
FAX 〇五七五―四六二―三三三五

中根税務会計事務所
税理士長
中根武
〒170-0003 豊島区駒込一―一二―一六
レジデンス六義園一F
TEL 三九四五―八五九四
FAX 三九四五―八五四一

株式会社ナガホリ
会長
長堀守弘
〒110-8546 台東区上野一―一五―一三
TEL 三八三六―四七二三
FAX 三八三五―〇八二五

株式会社ストライク
取締役
中村康一
〒100-0004 千代田区大手町一―一九―二
大手町フィナンシャルシティグランキューブ一八F
TEL 六八六五―七七九
FAX 六八六五―七七九〇

株式会社ナミキ
代表取締役
並木洋一
〒175-0094 板橋区成増三―一―二一―一
TEL 三九三九―〇〇二八
FAX 三九七五―〇〇五八

公益財団法人新聞通信調査会
理事長
西澤豊
〒100-0011 千代田区内幸町二―二―一
日本プレスセンタービル一F
TEL 三五九三―一〇八一
FAX 三五九三―一〇八二

西山商事株式会社
代表取締役会長
西山武夫
〒201-0004 狛江市岩戸北四―一―九―一二
TEL 三四八〇―一四二〇
FAX 三四八〇―四三六五

株式会社ビッグケテニス
代表取締役
畠中君代
〒177-0054 練馬区立野町三〇―一―〇
TEL 三九二八―二二二二
FAX 三九二八―二二二三



『防水と屋上を総合的にプロデュースする』

総合防水材料メーカー

日新工業株式会社

〒120-0025 東京都足立区千住東2丁目23番4号

TEL 03-3882-2424

代表取締役社長 **相臺公豊**

専務取締役 **相臺志浩**



ミズ太郎



株式会社富士設備
 監査役 原田 榮
 〒161-0031 新宿区西落合四一七一―一四
 TEL & FAX 三九五二―二八五九

株式会社バンダイロジナル
 代表取締役社長 馬場 範夫
 〒124-8585 葛飾区東四つ木四一四二―一五
 TEL 三六九五―五一五一
 FAX 三六九五―五二六〇

ネットトヨタ水戸株式会社
 取締役社長 幡谷 公朗
 〒310-0851 水戸市千波町一九八八
 TEL 〇二九―二四一―三二二一
 FAX 〇二九―二四三―二六四四

本間美邦税理士事務所
 所長 本間 美邦
 〒102-0083 千代田区麹町四一三一―一五
 紀尾井観光ビル
 TEL 三三六五―五一六一
 FAX 三三六五―五一〇七

弁護士 堀越 孝
 代表取締役 藤代 耕一
 〒221-0021 横浜市神奈川区子安通一―二二一六
 TEL 〇四五―四三三―〇一〇一
 FAX 〇四五―四三三―〇六〇〇

フジ企画株式会社
 代表取締役 藤代 耕一
 〒221-0021 横浜市神奈川区子安通一―二二一六
 TEL 〇四五―四三三―〇一〇一
 FAX 〇四五―四三三―〇六〇〇

ひらかわ環境デザイン
 所長 平川 清
 〒343-0117 埼玉県北葛飾郡松伏町田中二―一五―一
 TEL & FAX 〇四八―九九一―二九三六
 明建会(明治大学理工学部建築学科OB会)会長

日本リック株式会社
 最高顧問 日高 憲三
 〒102-0072 千代田区飯田橋四一八一―一三
 タカラビル
 TEL 五二一六―六五五二
 FAX 六二七二―八九七六

ダイニチグループ
 代表取締役 六井 元一
 〒279-002 千葉県浦安市北栄一―一六一―三
 DNプラザビル
 TEL 〇四七―三五四―〇一三三
 FAX 〇四七―三五四―〇一一九
<http://www.dainichi.co.jp>

ハードプロテクト株式会社
 代表取締役会長 宮下 隆
 〒170-0005 豊島区南大塚三―三二―一〇
 TEL 五九五〇―六六五一
 FAX 五九五〇―六六五二

学校法人松商学園
 理事長 丸山 律夫
 〒390-1295 長野県松本市新村二〇九五―一
 TEL 〇二六三―四八七―二〇七
 FAX 〇二六八―四八七―二九七

摩尼和夫 (僧名之 法)
 〒222-0037 横浜市港北区大倉山二―八―一七
 TEL 〇四五―五三二―二〇五四
 FAX 〇四五―五三一―四一―一四

引越で選ばれて160万件達成!!
 カルガモ引越センター株式会社
 代表取締役 的場 栄一
 〒175-0092 板橋区赤塚三―二九―一五
 TEL 三九七六―二二一
 FAX 〇五〇―三七三〇―九八七八

寒中見舞いはがき 印刷承ります

株式会社マイプリント
 〒206-0025 東京都多摩市永山6-11-11
 Tel 042-337-8111(代表) Fax 042-337-8121
<http://www.myprint.co.jp>



株式会社ヴィドフランス
代表取締役社長
村 上 知 義
〒134-0088 江戸川区西葛西六-1-9
パン科学館2F
TEL 五六七九-1841
FAX 五六七九-1842

明治大学校友会 名誉会長
村 山 富 市
〒870-0033 大分市千代町三-2-2
TEL & FAX 〇九七-五三一〇〇三三

株式会社大同
代表取締役
村 山 友 彦
〒100-0014 千代田区永田町二-4-1
フレンドビル6F
TEL 三五八〇-1344

学校法人明治大学
理事長
柳 谷 孝
〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1
TEL 三二九六-4000
FAX 三二九六-4328

株式会社やまたけ
代表取締役社長
山 口 大 介
〒123-0841 足立区西新井五-35-1
TEL 三八九九-3737
FAX 三八九九-4672

明治大学評議員会 議長
山 口 政 廣
〒273-0047 千葉県船橋市藤原七-1-4
TEL & FAX 〇四七-四三八-八六三五

山田サービサー総合事務所
(登記社名 株式会社山田債権回収管理総合事務所)
代表取締役
山 田 晃 久
〒220-0004 横浜市西区北幸1-1-15
横浜STビル18F
TEL 〇四五-1325-1393
FAX 〇四五-1325-1394

株式会社不二家
代表取締役社長
山 田 憲 典
〒112-0012 文京区大塚二-1-5
ニッセイ音羽ビル
TEL 五九七八-1133
FAX 五九七八-1863

株式会社日本金属工芸研究所
取締役会長
彫刻家
山 田 朝 彦
〒113-0023 文京区向丘1-16-1
TEL 三八一-1770
FAX 三八一-0003

金魚の吉田 株式会社ヨシダ
代表取締役
吉 田 信 行
〒124-0023 葛飾区東新小岩五-1-4
TEL 三六九四-3751
FAX 三六九四-3753

株式会社東京精密
代表取締役社長
兼CEO
吉 田 均
〒192-8515 八王子市石川町
TEL 〇四二-6421-1701
FAX 〇四二-6421-1798

桜神宮
宮 司
芳 村 正 徳
〒154-0014 世田谷区新町三-2-1
TEL 三四二九-〇八六九
FAX 三四二九-七四五二

株式会社SEC
代表取締役
渡 邊 和 男
〒101-0054 千代田区神田錦町三-7-2
フジタビル4F
TEL 五二八-1955
FAX 五二八-1290



大学と校友の皆様のかけ橋となります。
本年もよろしくお願いたします。

(株)明大サポート (明治大学外郭事業会社)

設 立 1996年1月22日
〒101-8301東京都千代田区神田駿河台1-3-1
明治大学大学会館地下1階
Tel:03-5280-1500 Fax:03-5280-1505
ホームページhttp://www.meidai-support.com



明サポ情報満載

明大サポート公式アプリ



連合駿台会十一月例会

「薬のいらぬ健康法」

イシハラクリニク院長・医学博士

石原 結實氏



連合駿台会恒例の一足早い忘年例会が、百二十人を超える参加者のもと、十一月二十一日（水）十七時四十五分より、明治大学紫紺館で、石原結實氏をゲストスピーカーとして開催しました。

当日の要旨は以下の通りです。

*

「食が血となり、血が肉となる」

現在、日本人の平均寿命は、男性が八十二歳、女性が八十八歳で、世界有数の長寿国といわれるのは周知の通りである、しかし平均寿命というのは、いま0歳の子どもが平均し、あと何年生きられるかを示す「平均余命」

（予測）であって、自分が何歳まで生きられるか……という指針ではないのである。

死因別順位を見ると、第一位は「ガン（悪性新生物）」である。一九七五年にはガンによる死亡者は十三万人、当時の医者の数も同じ十三万人だった。それから四十三年が過ぎ、ガンに対する研究・治療法も急ピッチで進み、医師数も三十三万人にまで増えているというのに、昨年ガンで亡くなられた方は、当時の約三倍の三十八万人まで増加している。

ガンの治療法としては、手術・放射線・抗ガン剤が三大療法だが、最近、手術はしても抗ガン剤はやりたくないという人が多くなって、そうになると医者も責任が持てなくなり、医者も患者もどうしたらいいかわからなくなっているケースも少なくないという。

二十数年前、当時、慶應義塾大学附属病院放射線科講師だった近藤誠先生が書かれた『患者よ、がんと闘うな』（一九九六年・文芸春秋刊）は、この現象を引き起こすきっかけともなった。ガン死の恐怖に煽られ、ガンと闘わされ、苛酷な治療に苦しむ患者たち。手術はほとんど役に立たず、抗ガン剤治療に意味のあるガンは全体の1割にしか過ぎない。ガン検診は百害あって一利もないことを知ろう、無知や誤解に基づくガンについての認識を改め、後悔しないため、自分のガン治療法は自分で決めよう……、という内容で、ベス

トセラ―となった。つまり、ガンは何もしないのが一番という見解から書かれたものだった。これが絶対的に正しいかはともかく、近年、ガン患者が若年化していることが大きな問題であることは紛れもない事実である。

死因の第二位は「心疾患」で約二十万人。これまで長い間「悪性新生物」「心疾患」「脳血管疾患」が日本の三大死因と言われてきたが、近年その流れに変化が起きている。脳血管疾患による死亡数が年々減少する一方で肺炎による死亡数は増加、二〇一〇年以降は順位が逆転、僅差ではあるが、肺炎が第三位となっている。現在、肺炎で十二万人が亡くなっているが、うち半分は抗ガン剤の副作用とステロイド系ホルモン剤に起因するものである。このホルモン剤は万能の特効薬でもあるが、糖尿病・骨粗鬆症、高血圧、うつ病などを引き起こす要因も内含しており、長く服用すると白血球が減少して、肺炎になる危険性がある。また高齢者が肺炎で亡くなられる場合は、肺炎球菌が原因というより誤嚥性肺炎が多い。

第四位が脳血管疾患、昭和三十年代まではこのうちほとんどが脳出血（脳溢血）だったが、今は脳梗塞（脳血栓）で亡くなるケースが約七五割、脳出血は約一八割、クモ膜下出血が約五割となっている。

第五位は「老衰」で約九万人だが、これは

仕方ない。以下「不慮の事故」、「腎不全」、「自殺」、「大動脈瘤及び解離」、「肝硬変」と続き、その他もろもろの原因で毎年約百三十二万人の方が亡くなられている。

昨年、日本の医療費総額は42兆2000億円だった。簡単に言うが、1兆円というのは、二千七百年前の縄文時代から、毎日100万円ずつ使った額に相当し、その四十二倍もの医療費を一年に使っている計算になる。医者も増え、医療技術も研究も日々進歩しているというのに、結局病気が減らないというのはおかしくないだろうか？ それでいて国の借金は約1200兆円もあり、その足を引く張る医療費は、今後毎年1兆円ずつ下げざるを得ないだろう。

西洋医学では、糖尿病には糖分、心筋梗塞・脳梗塞にはコレステロールが悪い、そういう断片的なことしか言わないが、東洋医学には二〇〇〇年も前から「食が血となり、血が肉となる」という言葉がある。私たちの体は食べ物でできていて、生きているわけだから、食べ物すべてを決めるといって考え、この言葉はそのことを端的に表している。

これを踏まえて先ほどの死因を考えてみると、一九六〇年頃までは、日本人のガンは胃ガンと子宮頸ガンが多かった。ところがいまは、肺ガン、大腸ガン、乳ガン、卵巣ガン、子宮体ガン、すい臓ガン、白血病、食道ガン

が増えている。これらを一言で言うと「欧米型のガン」である。心筋梗塞だって戦前にはほとんどみられなかった。脳卒中・脳出血は減少傾向とはいえないもの、増えている脳梗塞は「欧米型の脳卒中」である。糖尿病にいたっては、終戦直後は数百人しかいなかったというが、現在では予備軍も含めると二千二百万人いる。塩分を目的の敵にする高血圧だって、塩分摂取量を昔の四分の一まで減らしても高血圧症の患者数は減らず、少なく見積もっても四〇〇〇万人、ひよっとしたら六〇〇〇万人ともいわれる。高脂血症も三〇〇〇万人もいるというし、まさに「病気国家」だ。

欧米化した食事が病を招く

となると、問題はやはり「食」だ。一九五〇年から二〇〇〇年の五十年間で比べても、乳製品の摂取量が十九倍、肉類が九・八倍、卵が六・八倍になったのに対し、コメは約半分、イモ類は十分の一、豆腐の原料も半分以下と、一言で言う「食事が欧米化」してきている。

心筋梗塞やガン、脳梗塞、肥満などの生活習慣病が多かったアメリカでは、一九七五年、上院に「栄養改善委員会」が設けられ、医学者に「全世界の栄養状態と病気の状態」を調べさせた。二年後に、五千ページにも及ぶ調査報告書が出されたが、その冒頭に「アメリカの反省」が載っている。これを見たマクガ

バン上院議員が「我われはばかだった。我われは造病食、殺人食を食べていた」と涙ながらに上院で演説したという話は有名である。その主旨を要約すると、以下のようなになる。

- ① 一日のエネルギー摂取量の五五〜六〇%を炭水化物にする
- ② 一日のエネルギー摂取量の三〇%まで、脂肪摂取を減らす
- ③ 飽和脂肪酸（バター、ラードなど動物の脂）と不飽和脂肪酸（魚油、植物油などの油）の摂取量の比率を同等にする
- ④ コレステロールの摂取量を一日三〇mgまで減らす
- ⑤ 砂糖の摂取量を四〇%減らす
- ⑥ 塩の摂取量を一日三gまでに減らす

そして具体的には、しっかり食べるべきものとして、フルーツ、野菜、玄米・玄麦・トウモロコシ・ソバ類、鶏肉、スキムミルク、魚、植物油を、食べることを控えなければならぬものとして、牛乳、肉、卵、バター、砂糖脂肪、塩をあげている。という経緯で、結局のところ一番いい食事が「和食」ということになり、アメリカでも週一〜三回ほど和食を摂る人が増え、二〇一一年には心筋梗塞の死亡率が五八%減って半分以下になった。ガンで死ぬ人も、G8の中ではアメリカだけ一七%減らしている。

アメリカが率先して言ってくれたことを、

わかりやすく言うと下記の通りである。

①動物性脂肪（ラード・バター・マヨネーズ・ベーコン等）の摂りすぎを控える

これらは固体なので、身体体の中に入るとか固まって血栓を作りやすい。コレステロールによって、女性の卵巣で女性ホルモン、男性の睾丸で男性ホルモンができるが、女性ホルモン過多になると乳ガン・卵巣ガン・子宮体ガンに、男性ホルモン過多になると前立腺ガンになる。

②魚介類・植物性脂肪をたっぷり摂る

魚の油はサラサラしているので、血栓を溶かして血圧を下げる。エビ、カニ、イカ、タコ、貝、カキなどの魚介類は、高コレステロール食品として「好きだけど控えている」とおっしゃる方が少なくないが、この「魚介類Ⅱ高コレステロール食品」という図式は四十年以上前の一九七七年に、大阪大学内科教授（当時、のちに大阪大学総長）の山村雄一博士によって否定されている。

山村教授らの研究グループは、コレステロール測定において、それまでの「比色法」にかわり、コレステロールにしか反応しない酵素を利用して分析器で厳密に測定する「酵素法」を考案した。その結果、魚介類のコレステロールは意外に少ないこと、比色法ではコレステロールと化学構造のよく似た六種類

ル、β-シトステロール、ブラシカステロール等）を測定していたことを突き止めた。

しかも、こうした魚介類には遊離アミノ酸の「タウリン」（人体内では筋肉、心筋、脾臓、肺、脳、脊髄、肝臓等に分布している）が多く含まれ、次のような薬理効果を発揮することが明らかにされている。

- ・ 肝臓の解毒能を強化する
- ・ コレステロール系の胆石を溶解する
- ・ 血液中のコレステロールを減少させる
- ・ 強心作用を発揮する
- ・ 不整脈を改善する
- ・ 血圧を正常化させる
- ・ 筋肉疲労を取り去る
- ・ アルコールの害を防ぐ
- ・ 精力を増強させる
- ・ インスリンの分泌を促し、糖尿病を予防する
- ・ 視力の回復に役立つ

秋が深まると共に海水の温度も下がってくると、魚介類の身もしまってきて、その味もますます美味しくなる。食欲の秋、えび、かに、イカ、タコ、貝、牡蠣などを酒の肴に、また寿司のネタにして存分に食べ、ますます健康を増進していただきたい。

欧米では devil fish（悪魔の魚）として忌避される「octopus（タコ）」を食べる国々が、イタリア、スペイン、ギリシャなど地中海の

国々である。こうした国々では、タコのみならず、えび、イカ、貝、魚などの魚介類のほか、オリーブオイル、野菜、豆類、果物などを多く食べ、乳製品や肉類の摂取は、ほかの欧米諸国に比べて少ない。こうした「地中海食」は「和食」と共に、「健康長寿食」として世界中の脚光を浴びている。実際、地中海の島々を訪れると、百歳以上の長寿者がたくさんおられる

③食物繊維を多く摂取する

食物繊維を摂取することで、身体に悪いものを全部かすめ取って排出してもらおう。食物繊維と聞くとまずゴボウと思われるかもしれないが、ゴボウは百グラあたり一・五グラ、これに比べ海藻類、特にひじきは百グラあたり一〇グラ以上も含まれている。ほか大豆、小豆、ゴマ、納豆にも多く含まれる。

④食べておいしいと思うものを食べるのが一番身体にいい

今までの話と矛盾して聞こえるかもしれないが、人の言うことなど聞かないで、好きなものを食べることも悪くはない。イチローも内村航平も、好物は肉、ピザ、カップヌードル等々、身体に悪そうなものばかりだが、あれほどの大記録を打ち出している。

世界一長寿といわれる人は、一九九七年に百二十二歳で亡くなったフランス人女性ジャンヌ・カルマンさんだが、この人は嫌いなも

の(野菜)は食べない主義で、大好物はタバコとチョコレートと赤ワインだった。さすがにタバコは百十七歳で禁煙したそうだが、チョコレートとワインは死ぬまで手放さなかったという。この話を聞くと、何が健康にいいのかわからなくなる人も多いだろう。

ただ簡単に言うと、体質には大別して二タイプあり、陰性体質(Ⅱ「冷え性」、女性に多く、男性だと背が高くて色白・やせ型タイプ)と陽性体質(ずんぐりむっくり赤ら顔で、高血圧気味)によって食物の好みが異なる。前者は温かいものや塩辛いものを好むのに対し、後者は身体を冷やすようなものや酢の物が好きなのだ。

色的に食べ物を分けて見れば、陰性体質は白っぽいものを、陽性体質は色味のあるものを好む。つまり陽性体質の人は、牛乳よりチーズ、うどんより蕎麦、白ワインより赤ワイン、ビールより黒ビール・梅酒・紹興酒、砂糖よりハチミツ、洋菓子より和菓子、炒め物より漬物などを好む傾向があるという。体質、さらにその時の体調、あるいは季節などに合わせ、食べたいものを食するのが、一番身体にいいのである。

腹八分目に医者要らず

ただ問題は「量」にある。だいたい食べ過ぎていて。一日三食ではなく、一食だけで十分活躍されている方は案外多い。その中の一

人、作曲家の三枝成彰氏が書かれた『無敵の「1日1食」 疲れ知らずで頭が冴える!』(SB新書)という本は面白い。柱になっているのは下記のようなことだ。

- ① 食べるからお腹が空く、食べなければお腹は空かない
 - ② 食べるから病気になる、食べなければ病気をしない
 - ③ 食べるから老ける、食べなければ老けない
 - ④ 合言葉は「孫を抱くより、女を抱け!」(これは(?)という気もするが(笑))
- 健康ブームで、玄米食や無農薬野菜、また

【講師略歴】

石原 結實(いしはら・ゆうみ)

一九四八年長崎市生まれ。長崎大学医学部(卒)及び同大学院博士課程(修了)。医学博士。先祖は「種子島」の御殿医。

幼少時より虚弱でよく発熱し、高校時代は慢性の下痢で悩まされた。大学に入り「西式健康法」に出会い、青汁(キャベツジュース)で改善。二本謙三博士(東大医学部内科教授)や森下敬一博士(現・お茶の水クリニク院長)の著書に感銘を受けて玄米食を始め、諸症状が完治。ウエイト・トレーニングも始めて、更に体調が向上。こうした経験が自然医療を目指すきっかけになる。

一九七七〜一九九二年、長寿で有名なグルジア共和国(コーカサス地方)の長寿村の食生活の調査に五回赴く。同時に、モスクワのニコライエフ博士の「断食病院」にも立ち寄り、同博士より薫陶を受ける。

一九七九年、スイスの自然療法病院「B・ベンナー・クリニク」にて、難病・奇病を治す「人参・リンゴジュース」を中心とした自然医療を勉強。

一九八二年、東京に内科医院「イシハラクリニク」を開設。漢方薬処方を中心に診療を行う。

一九八五年、伊豆に人参ジュース断食、玄米食、温泉などで健康を増進する「ヒポクラティック・サナトリウム」を開設。これまでに元・首相三人を含む閣僚経験者二十余名はじめ国会議員数十名、裁判官、

検事、弁護士、大学教授、会社社長、俳優から学生まで三万人以上の方々が人参ジュース断食を体験。最近はお医者さんの来所も多い。

一九九五〜二〇〇八年、「おもいきりテレビ」(日本テレビ系)に出演し、健康情報を発信。主婦層に人気を得る。

一九九九年、米国のロマリタ大学病院(患者に菜食のメニューを提供)やメキシコ・ティファナのゲルソン病院(ガンの自然療法を施行)を視察。

二〇〇一年、ドイツのミュンヘンの自然療法院、イギリスのプリストル・癌・ヘルプセンターを視察。

一九七七年から今日まで、全国で講演を約千五百回、二十五年間毎週日曜日にサナトリウムで行っている二時間半の健康講座を含め、これまでに合計三千回近い講演をこなす。

著書は一九七九年の「病気はかならず治る」(善本社)の処女出版以来三百冊。ベストセラーになった「生姜力」「体を温めると病気は必ず治る」「医者いらすの食べ物事典」他、十万余冊以上のベストセラーが十一冊。米、ロシア、ドイツ、フランス、中国、韓国、台湾、タイ、インドネシアなどで計百冊以上が翻訳出版されている。

自身の提唱する超小食生活(朝は人参ジュース、昼は生姜紅茶、夜は和食)を続けながら、年間三百六十五日休みなく診察・講演・執筆・メディア対応を行う。その合間に週五日、一日に約10時間のジョギング、週一回のウエイト・トレーニングを習慣とし、「運動」「少食」を鍵に、病気知らずの健康体を保っている。

サプリメントなどにこだわる方が多いが、これも摂りすぎでは意味がない。逆に、一見身に悪そうなものを食べても、少なければ問題は無い。一日三食は食べ過ぎで、腹八分目に医者要らず、なのである。

私はいえ、二十六歳から四十五歳までは、朝食は人參ジュース二杯、昼はとろろそば、夜は和食だった。四十六歳から五十九歳までは、昼はテレビの生放送に出ていたこともあり、朝食は人參ジュース二杯、昼はだいたい取材の人と一緒に、黒砂糖入り生姜紅茶。夕方は伊豆に帰り、毎日10キロ（一時間）走って、入浴を済ませた後、ビールか焼酎に好物のイカ刺し・タコ刺し、ご飯・味噌汁・納豆にえびの天ぷらやイカの煮物など……、一年中ほとんど変わらないメニュー。私は偏食質で、肉も卵も牛乳も嫌いだから食べないし、魚はえびとイカとタコ、明太子とイクラ以外は嫌い。ちなみに一番好きなのは、人を食うことだ（笑）。

というわけで一日一食を続けているが、四十六年間、漢方薬以外の薬は飲んだことがない。ただウェイト・トレーニングは、自宅地下に作ったトレーニングジムで、ベンチプレスやスクワットなどを週二回欠かさない。

ガンをはじめ、高血圧、肝臓病、糖尿病、心臓病などの現代文明病は、人間の体に合わない「食べ方」をしてきたことが原因であ

る。それを防ぐには「少食」にし、薬効のあるさまざまな食べ物を体調に応じて摂取することである。腹八分目の食事で免疫力を上げれば、生きる力も湧いてくる。空腹の間を作ることの楽しみを知ってもらいたい。

◆新入会員ご紹介

前会までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。（敬称略・到着順）



宮入 知喜
みやいり ともき
平成十二年・理工学部卒
（株）ファンデリー
常務取締役
埼玉県川口市在住



萩原 裕次
はぎわら ゆうじ
昭和六十年・法学部卒
シーダー（株）
代表取締役社長
静岡県御殿場市在住

◆明大ニュース

●「明治大学創立一四〇周年記念事業実行委員会」が始動

学校法人明治大学は、創立一五〇周年を見据え、二〇二二年に迎える創立一四〇周年を記念した事業や各種行事を実施することを目的に「明治大学創立一四〇周年記念事業実行委員会」をこのほど設置し、十一月六日に第

一回目の実行委員会を開催した。

実行委員会は、柳谷孝理事長を委員長、土屋恵一郎学長を副委員長とし、法人役員、大学役職者をはじめ、校友会、連合父母会、連合駿台会、駿台体育会および教職員など、幅広い分野の委員で構成され、第一回目の委員会では、一四〇周年記念事業のありかたについて、白熱した議論が交わされた。

今後は、記念式典・祝賀会（座長：大田原健司総務担当常勤理事）、教学記念事業（座長：中村義幸教務担当常勤理事）、スポーツ記念事業（座長：鈴木利大学務担当常勤理事）、広報戦略（座長：飯田和人経営企画担当常勤理事）の各分科会で具体的な計画を検討し、創立一四〇周年である二〇二二年を指して実行委員会できりとめていく。

●公認会計士試験

明治大学から現役学生五十二人が合格

金融庁の公認会計士・監査審査会は十一月十六日、二〇一八年の公認会計士試験合格者を発表した。最終合格者数は一三〇五人（前年一二三一人）で、合格率は一一・一％（前年一一・二％）。今回合格した明大出身の合格者は七〇人。うち現役学生は五二人だった（十二月六日現在、明治大学経理研究所調べ）。

この発表を受け経理研究所は十二月六日、本学の公認会計士養成機関である経理研究所

特別会計研究室に所属し、現役合格した学生（法学部一人、商学部二人、政治経済学部七人、経営学部一六人、国際日本学部一人、会計専門職研究科二人の計四九人）を対象とした報奨金授与式を駿河台キャンパス・岸本辰雄ホールで執り行った。

授与式の冒頭、あいさつに立った山本昌弘（経理研究所長（商学部教授）は、合格者を祝福した上で「これから自分自身がどういう分野で勝負をするのかを考え、卒業までの時間でさらに自分磨きをしてほしい」と激励。合格者を代表して堀池貴一さん（経営2）に報奨金目録が、合格者一人ひとりに表彰状が山本所長から授与された。

合格者代表として謝辞に立った小林美波さん（政経3）は、経理研究所で切磋琢磨した日々を振り返るとともに「会計士として信頼を得られるよう丁寧に仕事に取り組みたい」と新たな目標を掲げ、飛躍を誓った。

●連合駿台会寄付講座

「GINZASIX」桑島社長が登場

リバティアカデミーの明治大学連合駿台会寄付講座「異分子結合によるGINZASIXの挑戦」が十一月九日、駿河台キャンパス・グローバルホールで開催された。

二〇一七年四月に開業した世界有数の高級商業施設「GINZASIX」を運営する、

GINZASIXリアルティールマネジメント株式会社取締役社長の桑島壮一郎氏（一九八〇年文学部卒）を講師に迎え、同施設の開発秘話などについて話題が展開された。

桑島氏が率いるGINZASIXリアルティールマネジメントは、J・フロントリテイリング・大丸松坂屋百貨店、森ビル、Lキャタルトンリアルエステート、住友商事の四社が共同出資によって設立した運営会社。前半は、百二十一の旗艦店を含む二百四十一店舗のラインナップをはじめ、ストーリーのある上質な空間を演出した内装環境とプロジェクトインマッピングを活用したアート展開、プレミアムラウンジなどVIP対応を充実させたサービス戦略、季節に応じた多様なイベントを企画するプロモーション戦略など、GINZASIXの魅力が余すところなく披露された。

後半では、国内基準の物販スポットではなく、世界基準の新たな価値創造を目指し、異業種四社のノウハウ、スキル、ネットワークなど強みを生かしたプロジェクトの数々を解説。「コンセプトは“Life At Its Best”（＝最高に満たされた暮らし）。商品の提供から体験の提供へ、想定外をいかに感じさせられるか、五感を越えた六感に挑戦したい」と締めくくった。

会場には学生をはじめ社会人など約百五十

人が来場。質疑応答が途切れることなく終了時間まで行われるなど、最先端の画期的な取り組みに触れることができるまたとない機会となった。

●OB市長・町長

▽新潟県新潟市長（十月二十八日投開票）

中原八一氏（無所属①、一九八四年政経学部卒・五十九歳）

▽福岡県みやま市長（十月二十八日投開票）

松嶋盛人氏（無所属①、一九七八年農学部卒・六十五歳）

▽鹿児島県天城町長（十二月二日投開票）

森田弘光氏（無所属①、一九七四年政経学部卒・六十七歳）

▽神奈川県大井町長（十二月九日投開票）

小田真一氏（無所属①、一九七七年経営学部卒・六十五歳）

●全日本学生拳法選手権 インカレ七連覇を達成

体育会拳法部は十一月二十五日、第六十三回全日本学生拳法選手権大会（大阪府立体育会館Ⅱエディオンアリーナ大阪）で優勝した。この結果、大会七連覇を達成した。

七人の団体戦で戦う本大会で拳法部は、決勝で龍谷大学と対戦。大将戦までを戦い3勝3敗1引き分けと五分の展開で迎えた代表決

定戦では、松本崇雅主将(文4)が粘り強さを発揮し見事勝利を収め、チームを優勝に導いた。

今季の拳法部は、五月の東日本大学リーグ戦、七月の全国大学選抜選手権大会、十月の東日本大学選手権大会でも優勝を果たし、グランドスラムを達成。チーム一丸で、常勝・明治の名をとどろかせる結果となった。

◆忘年例会景品寄贈者

十一月例会では、恒例のクジ引き大会を行いました。景品にご協力いただきました方々は、下記の通りです(五十音順・敬称略)。

青柳勝栄、池田泰弘、井上欽也、大野正美、大前実之、尾暮敏範、長田宇功、河村博、草木頼幸、沓掛英二、古賀慎一郎、小島清治、佐藤寛、志田憲彦、鈴木隆志、武内裕、田中孝明、田村駿、当山明彦、長堀守弘、並木洋一、西澤豊、根岸伸明、馬場範夫、林威樹、平川清、福見勉、榎野泰、松本伸一郎、的場栄一、宮下隆、柳谷孝、山田晃久

◆十一月例会出席者

青木幹則、青柳勝栄、秋山隆敬、环昭二、浅井宏、安達明正、阿部倫明、同ご友人、有賀隆治、池田勝也、石川かおり、同ご主人、石川均、石橋良一、石原道勝、伊東正博、井

上欽也(代理) 井原敏雄、上西紘治、宇川一夫、潮田伊佐夫、宇敷和章、同ご友人、宇田川雄弘、内川雄一郎、浦川竜哉、大竹夏夫、同ご友人、大原幸男、大前実之、大屋政則、尾暮敏範、鬼塚和也、加賀美猛、勝保正義、狩野省市、栢森靖、菊部彰夫、河村章、河村博、神林光、木村健一、草木頼幸、沓掛英二、小島清治、小林一光、小山修、小山有彦、根田哲雄、齊藤弘之、齋藤柳光、坂田貞夫、坂田英夫、佐藤和正、佐藤健、佐藤寛、澤野太嘉嗣、志田憲彦、杉浦伸二、鈴木章浩、鈴木隆志、同ご友人、関孝夫、瀬戸正道、高澤徹、武内裕、武田宣夫、田口幸隆、同ご友人、田代恭一(代理)、田中孝明、田村駿、樽見俊之、辻井知明、当山明彦、徳丸平太郎、泊三夫、富井征也、富水流孝二、中川敏洋、中里猛志、中根武、長堀守弘、同ご友人、中村康一、中村豊、並木洋一、二井康夫、西澤豊、二宮充子、根岸伸明、長谷川進一、同ご同伴、塙英幸、羽生健一郎、馬場範夫、原田榮、平川清、同ご友人、廣渡真(代理)、福田和彦、福見勉、藤巻伴英、堀越孝、前川一郎、眞壁八郎、榎野泰、松崎優子、的場栄一、三浦栄治、宮下隆、宮本浩二、向井眞一、向殿政男、村岡健、村山友彦、室井恵明、森一朗、柳谷孝、山上雅隆、山口政廣、山田朝彦、山田勝、弓野理恵、渡邊一治、渡邊健三、綿引宏行

【編集後記】

「歓迎(ようこそ)！」。五十年前と全く変わらない。中国語を教えていただいた恩師の王育徳先生は遺影の向こうでにこやかに迎えてくれた。生誕地の台湾・台南市の記念館。昨年九月の三三回忌にオープンしたばかりなのに、日本からも何人も教え子が訪れたという。お名前の通り、徳にあふれた教育者だからだろう。語り草がある。友人が学んだあるクラスで期末試験のカンニング騒動が起った。王先生は生徒に質した。「友だちを助けたくてやったのですか?」。そして、非を認めた生徒をこう諭します。「カンニングは絶対に許されない。しかし、友を助けようという思いは大切にしない。当時の王先生は独立運動家だったことから国を追われ、同志と支え合って生きていた。自らにたどって話したのかもしれない。ともあれ、以後、全員が受講意欲を一気に駆り立てられて容易でない合格点もらっている。

当時の私も、アジア研究会というサークルで留学生と交流し、明治大学東南アジア親善隊として各国を訪問した。それだけに王先生の存在は人にも増して親身に感じられた。無念にも帰国がかなわなまま逝かれたが、顕彰されるまでに時代も変わった。展示されていた私たちのテキストを見詰めていると、昔を思い出して目頭が熱くなった。

幸いにも今回の台湾旅行で校友会支部総会に出席してこあいさつもできた。母校は一〇〇年以上も前から多くの留学生を受け入れてきた。初めての訪れた金門島にも思わぬ縁があった。台北からは空路一時間余だが、わずか二、三余先の対岸は中国本土。一九四九年に熾烈な金門砲戦があったが、ここでも時は移り、今は地下壕など戦跡が観光資源となっている。

実は、この島を死守した総司令官の湯恩伯將軍(一九五四年没)はかつて明治大学で学んだ人だった。台湾国家図書館の資料を閲覧すると学友七人で撮った一葉が遺されていた。意外やにこやかな調子がそこにいた。王先生のように……その白ふちに「日本明治大学」と雄々しく大書してあった。今度はうれしくて胸が熱くなった。

こうして、誇り高い母校の縁がそこで結ばれる。あらためて感謝したい。(齋藤柳光)